

平成30年度一橋大学附属図書館企画展示
社会科学古典資料センター設立40周年記念

これは「世紀のコレクション」と言ってよく、

絶対に「買い」である。

プロジェクト

世紀のコレクションを獲得せよ！

フランクリン文庫入手からセンター設立まで

一橋大学もいよいよ古典書を一ヶ所に集めた

貴重書書庫を建てなければいけないな。

2018年 **11月20日** (火) - **12月7日** (金)

入場無料

開室時間：10:00～17:00 会場：附属図書館展示室（時計台棟1階）

* 11月21日（水）～25日（日）の間、ルソー『人間不平等起源論』の初版本他数点を展示

* 土・日・祝日は閉室 ただし、一橋祭期間中（23日（金）～25日（日））は開室

講演会

「フランクリン文庫所蔵のフランス古文書史料からみた歴史研究」

入場無料

講師：堀越宏一氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

日時：2018年11月21日（水）13:30～15:00 会場：附属図書館会議室（時計台棟1階）



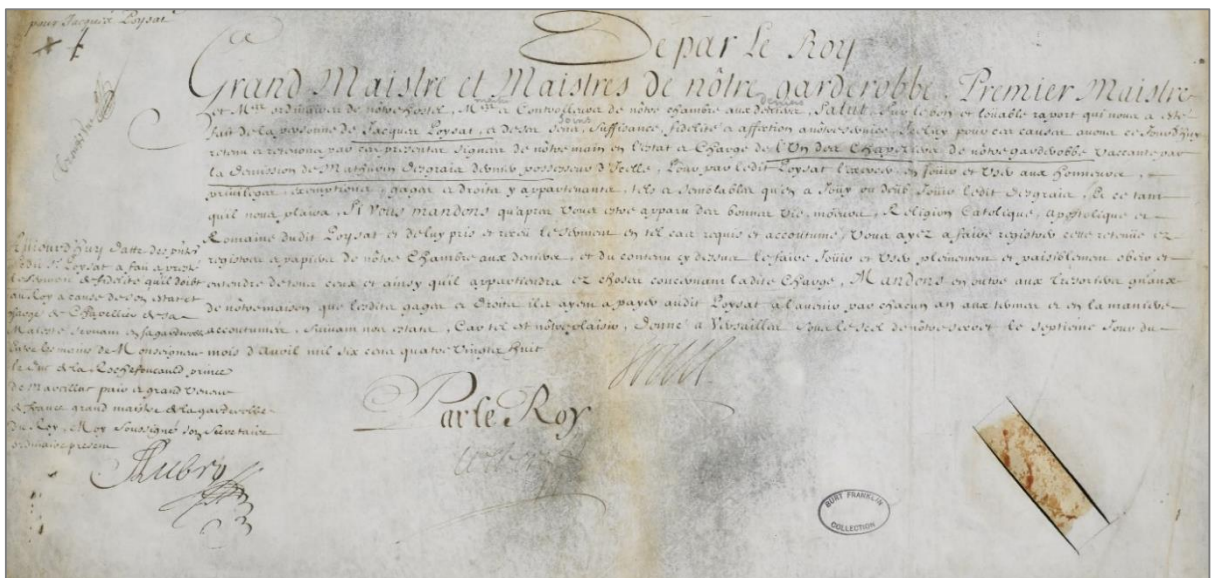
はじめに 今回の展示について

一橋大学附属図書館は、社会科学の世界4大文庫のひとつに数えられるメンガー文庫を1922年に収蔵したのをはじめ、西洋古典資料の大コレクションを構築してきましたが、1974年収蔵のフランクリン文庫が加わって、その評価はいっそう揺るぎないものとなりました。反面、かねてから書庫の収容スペース、温湿度などの保存環境の両面において不足があり、世界に誇るべき至宝にふさわしい貴重書書庫を新築する必要が切実な懸案となっていました。

社会科学古典資料センターは、貴重な古典を集中管理し、社会科学研究者の高度な研究に資するために、1978年に附属図書館から独立し、西洋古典資料に特化した国内で唯一の貴重書図

書館および研究機関として設立されました。西洋社会科学に関する古典研究、書誌学、資料保存・管理を講義形式で学ぶ西洋社会科学古典資料講習会を1980年から、併せて保存・修復に関する実技指導を含む西洋古典資料保存講習会を2000年から開催しており、国内で唯一の公的な研修機関としての機能も果たしています。1995年にセンター内に設置された保存修復工房では、専門スタッフが所蔵資料の保存修復作業、貴重書書庫の保存環境整備を進めています。

今回の展示では、センター設立40周年を記念し、その創設に最終的な契機を与えたフランクリン文庫を、その奇跡的ともいえるドラマチックな獲得経緯とともにご紹介します。



フランス国王ルイ14世が王室衣装係の帽子担当者ジャック・ポワサに与えた「官職保証書」1688年4月7日

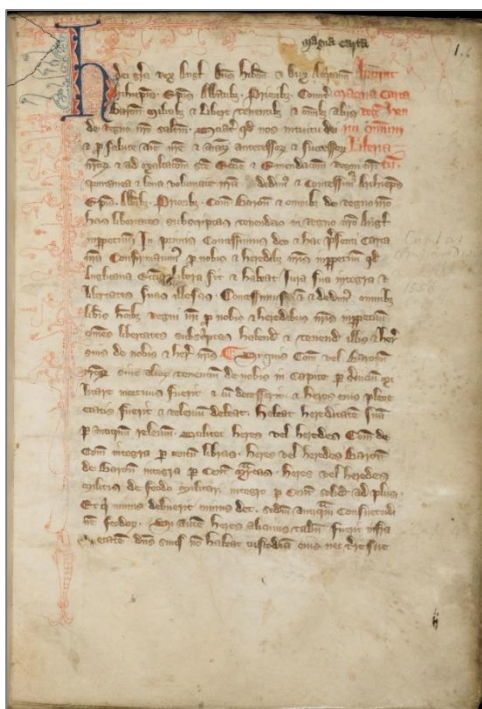
第一章

フランクリン文庫ってどんな文庫？

フランクリン文庫は、アメリカの古書籍商バート・フランクリン氏（Burt Franklin）が蒐集したコレクションで、経済学・政治学・社会学を中心とする社会科学関係書約7,000冊、パンフレット類約9,000点、マニュスクリプト類（手書き文書・写本）約600点が収蔵されています。イギリス、フランスを中心に、アメリカ、ドイツ、イタリア、オランダの著名な思想家の代表的な著作が網羅されているほか、周辺の有名無名の思想家の著作が豊富です。また多数のパンフレット、マニュスクリプト類は、経済史・政治史・社会史研究の貴重な原史料であり、特にフランス革命（1789）前後の法令等のパンフレット類が

充実しています。インキュナブラ（初期の活版印刷本）や稀覯書も多数あります。

フランクリン氏はオハイオ州で育ち、コーネル大学ロースクールを卒業後、弁護士になりましたが、社会科学専門の古書籍商に転じたのち、復刻本出版社を営しました。本文庫は、1974年に三井グループの寄付と文部省の一部補助によってフランクリン氏の蔵書を一括購入したもので、“Burt Franklin Collection - donated by Mitsui Group Companies”と名付けられました。



1300年頃筆写されたマグナ・カルタの写本

コラム

経済学の世界4大文庫

他の3つは何でしょう？ ロンドン大学のゴールドスミス文庫、ハーバード大学のクレス文庫、コロンビア大学のセリグマン文庫です。

ロンドン大学の経済学者ハーバート・フォックスウェルが蒐集し1901年に（アメリカに買い取られてあわやイギリスから海外流出かという寸前に）ゴールドスミス商會が買い取り1903年にロンドン大学に寄贈したのがゴールドスミス文庫。同じフォックスウェルが再度蒐集し1922年の没後、アメリカの実業家C.W.クレスが購入しハーバード大学に寄贈したのがクレス文庫です。

セリグマン文庫はコロンビア大学の経済学者、財政学者エドウィン・セリグマンが自ら蒐集しました。

第二章

フランクリン文庫がやってきた

都留学長の長い一日

フランクリン氏のコレクション売却の話が都留重人学長の耳に飛び込んだのは、1973年1月29日の正午過ぎ、小泉明図書館長が書店の社長を伴って学長室を訪れたときでした。

このリストを含む約2万冊のコレクションへ引き合いがきていて値段は100万ドルをくだらない、数日内に購入の申し出がなければ文庫はバラバラにしてオークションに出される、そう説明を受けた都留学長は、急ぎ、専門に近い古賀英三郎教授、津田内匠教授、細谷新治助教授へ、コレクションが100万ドルに値するものか、精査を求めました。

はじめは短時間での結論はとても無理だと話していた3氏でしたが、リストを点検するうちに「もし残りの1万数千件の文献がこれに匹敵する内容を持っていれば、この文庫は「メンガー文庫」につぐ今世紀最大の経済学書のコレクションであることは間違いない。」「絶対に「買い」である。」と力説するまでになったとのことでした。

同日午後8時、都留学長は緊急学部長会議を招集し、コレクション購入を前向きに検討することを決定しました。

細谷助教授、ニューヨークへ行く

都留学長よりコレクションの現地調査の命をうけた細谷新治助教授は、1973年2月10日、ニューヨークへ出立しました。

当時ハーバード大学に研究員として留学し

ていた尾高煌之助助教授や現地のライブラリアンの協力もあり、調査は快調に進み、2月15日、コレクションが予想したとおりのすぐれたものであることを確認した細谷助教授は、その旨、都留学長へ報告されました。

フランクリン文庫がやってきた

コレクションの購入にかかった総額は最終的に約3億5千万円と巨額となりましたが、そのうち約3億円は、三井物産をはじめとする三井系22社をもって構成される三井グループからご寄附をいただきました。

こうして都留重人学長、小泉明図書館長を始めとする多くの関係者の尽力に、数々の幸運が重なって、フランクリン氏のコレクションは散逸を免れ、「フランクリン文庫」として一橋大学へ収蔵されることとなったのです。

三友新聞 (三井物産グループの経済学書コレクション) 第11149号
1973年2月11日 東京 第1版

三井グループ22社で寄付
世界有数の一橋大学へ納まる

経済学を中心に一万五千件

三井グループ各社納入
事務用品・リコー特約販売店
日器株式会社
中央区日本橋区本町4-14(三井ビル内)
電話(03)7711代表

いよ 贈り物のこころ
日東紅茶
日東紅茶株式会社

Toshiba 総合代理店
電気機器に生きる
46年の歴史

フランクリン文庫受入を報じる三友新聞

第三章

フランクリン文庫整理事業

カーペンター氏の招聘と目録刊行

フランクリン文庫は、1974年3月に一橋大学附属図書館に搬入され、4月には整理が開始されました。

文庫の整理にあたっては、本学教員及び図書館員をもって構成されるフランクリン文庫協議会を、館長の諮問機関として館内に設け、万全の体制で臨みました。また、1975年9月から10ヵ月にわたり、ハーバード大学クレス文庫のキュレーター、カーペンター氏（Kenneth E. Carpenter）を招聘する幸運に恵まれました。

カーペンター氏がマニュスクリプト類の整理にあたる一方で、文庫整理についての指導助言を行うことによって、それまで少しずつ進められていた文庫の整理が一気に進み、1978年3月には目録を刊行することができました。

目録の解題（Introduction）は、カーペンター氏が執筆し、バート・フランクリン氏の

伝記、フランクリン文庫の入手経緯、フランクリン文庫の特色が述べられています。

刊行された目録は、第一次調査による仮目録ではありましたが、図書及びマニュスクリプト類の全部と英国で出版されたパンフレット類の合計約8,800件を収録したもので、これにより、「世紀のコレクション」の内容が世に広まることになったのです。

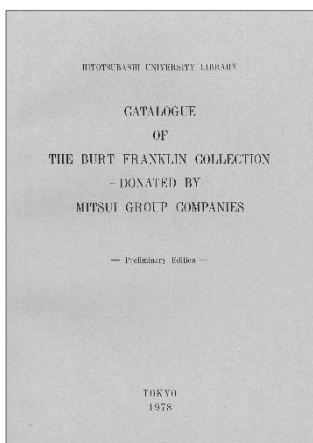
コラム

フランクリンさんってどんな人？

バート・フランクリン氏は1903年モントリオール生まれ、オハイオ州アクロン育ち。父は実業家、母はとても本が好きだったと言われています。1928年に法律の学位を取得し弁護士として数十年活動しましたが、法律業を本当に楽しんだことはなかったそうです。

氏の興味は、徐々に社会科学の稀覯書の蒐集に移っていきました。1942年にニューヨーク市で古書店、1946年には社会科学関係の学術図書のリプリント出版を始め、アメリカにおけるこの分野の先駆者となりました。また、1949年にD.リカルドの、50年にA.スミスの文献目録を編集・出版し、書誌学者としても知られるようになりました。

氏は体調の悪化に伴い、1970年ごろからコレクション一括売却先を探し始めました。1972年8月11日、ニューヨーク市で白血病のため死去。その約半年後の1973年1月29日、一橋大学にコレクション売却の話が持ち込まれたのです。



1978年刊行のフランクリン文庫の仮目録

第四章

社会科学古典資料センター設立



フランクリン文庫入手当時の書庫は、第1書庫（1930年竣工）と現第2書庫（1964年竣工）を合わせ 50万冊程の収容力のところ、実際には58万冊に達する蔵書を抱えており、メンガー文庫をはじめ、本学の学問研究の歴史を反映して収蔵された数々の貴重書を納めた貴重書室は第2書庫4階に、ギールケ文庫は最上階の第1書庫5階にあって、過乾燥の影響が懸念されました。新たにフランクリン文庫を迎えるにあたり、収容力とともに貴重書にふさわしい環境の整備が喫緊の課題となりました。

それまで不採択が続いていた図書館増築の予算要求を、貴重書に特化した書庫の増築に改めて交渉し、漸く空調設備を備えた貴重書書庫増築が実現します。1977年3月の竣工後、資料の配置・移動の計画と実施、利用規則の整備を進め、1978年3月、貴重書書庫がオープンします。

貴重書を将来に伝えるため万全の管理を施しつつ、研究利用を促進する難しい課題に取り組む体制も希求されました。2年に渡る準備と交渉の末、1978年4月、教員による研究調査部門を持つ社会科学古典資料センターが、学内共同教育研究施設として設置されます。

カーペンター氏が名付けたというセンターの英語名称は“Classic Books”ではなく“Historical Social Science Literature”です。それはギリシャ・ラテンの“古典”とは区別して、学史と共に経済・社会の記録を重視した蒐書にふさわしい名称です。当時の増淵図書館長がセンター長を併任、フランクリン文庫の調査に当たった細谷新治教授が初代センター教授に就任しました。

同年7月7日の開所式には、学内外から多数の参列者が集いました。その場に小泉明博士（学長在職中の1977年2月8日病没）をお招きできなかったことを、フランクリン文庫入手の発端からの日々を知る誰もが残念に思われたことでした。

文中記載の役職はいずれも当時のものです。



社会科学古典資料センター設立

社会科学古典資料センター一年表

西暦	和暦	事項
1921	大正10	ギールケ文庫を入手
1922	大正11	カール・メンガー文庫を入手
1929	昭和4	左右田文庫を入手
1974	昭和49	Burt Franklin collection, donated by Mitsui Group companies (フランクリン文庫) を三井グループ22社の寄附と国費により入手
1975	昭和50	フランクリン文庫整理のためにカーペンター氏招聘 (S50.9.10～S51.6.30)
1976	昭和51	貴重書書庫 (後の社会科学古典資料センターの建物) 着工 (～S52.3竣工)
1978	昭和53	メンガー文庫、ギールケ文庫、左右田文庫、フランクリン文庫等を附属図書館から移動し、貴重書書庫の運用開始 (S53.3.1)
1978	昭和53	「Catalogue of the Burt Franklin collection, donated by Mitsui Group companies」 (Preliminary ed.) 刊行
1978	昭和53	社会科学古典資料センター発足 (S53.4.1) 社会科学古典資料センター開所式 (S53.7.7)
1979	昭和54	ベルンシュタイン＝スヴァーリン文庫を百年記念募金により入手
1981	昭和56	第1回西洋社会科学古典資料講習会開催、以後毎年度実施
1988	昭和63	国際交流セミナー：カーペンター氏講演会「米国大学図書館における古典資料」 (S63.11.8)
1993	平成5	カール・メンガー文庫マイクロフィルム化・目録改訂・保存事業に着手 (～H7.8マイクロフィルム完納)
1995	平成7	貴重書保存修復工房開設
1998	平成10	フランクリン文庫保存修復事業開始
1999	平成11	フランクリン文庫総目録作成及びデータベース化に着手 (～H20.4一橋大学蔵書検索HERMESで公開)
2000	平成12	第1回西洋古典資料保存講習会開催、以後毎年度実施 フランクリン文庫フランス関係文献電子化第1期事業
2012	平成24	日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業を通じて、中高生を対象に古典資料や製本に親しむ講座を開催、以降毎年度実施 (H24.7.16)
2016	平成28	文部科学省共通政策課題「文化的・学術的な資料等の保存等」に採択され、「西洋古典資料の保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」開始 (～H31.3)




参考文献



- 岡崎義富「ゴールドスミス・クレス文庫マイクロフィルム版について」『鐘：一橋大学附属図書館報』No.3, p.5-6 (1980.2) <http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/KANE/kane03.htm>
- 岡崎義富「社会科学古典資料センター創設期の回顧」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第14号, p.6-12 (1994) <http://doi.org/10.15057/5477>
- 小泉明「図書館長の四年間」『一橋大学附属図書館史』国立：一橋大学, 1975, p.130-134
- 鈴木宏子「平成28年度～30年度文部科学省共通政策課題（文化的・学術的な資料等の保存等）「西洋古典資料保存に関する拠点およびネットワーク形成事業」の2年間を終えて」『一橋大学附属図書館研究開発室年報』第6号, p.6-02-1-1～6-02-11 (2018) <http://doi.org/10.15057/29422>
- 都留重人「"Burt Franklin Collection - donated by Mitsui Group Companies"入手の経緯」『一橋大学附属図書館史』国立：一橋大学, 1975, p.239-246 <http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/da/handle/123456789/5921>
- 細谷新治「「バート・フランクリン文庫」の調査の思い出」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第1号, p.2-6 (1981) <http://doi.org/10.15057/5578>
- 細谷新治『西洋書誌学入門：総合研修会講演録』[仙台]：東北大学附属図書館, 1985
- 細谷新治『私の体験的書誌学』東京：細谷新治, 1987
- 細谷新治「社会科学古典資料センター創立の頃の思い出」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第14号, p.1-5 (1994) <http://doi.org/10.15057/5471>
- 三上隆三『経済学事始』東京：東洋経済新報社, 1982, p.187-209「経済学4大コレクション」
- 脇村義太郎『回想九十年 師・友・書』東京：岩波書店, 1999, p.277-288「バート・フランクリン文庫」
- 「三井グループ22社で寄付 世界有数のコレクション一橋大学へ納まる」『三友新聞』第1114号, p.1 (1975.2.20)
- 「社会貢献事業 - 三井グループにみる企業と社会の結びつき」『三井グラフ』Vol. 8, 4 [通巻31号], p.3-9 (1977.10)
- 「本の"老化、これで安心」『読売新聞』第36368号, 朝刊, p.21 (多摩) (1977.11.4)
- Carpenter, Kenneth E. "The Franklin Collection and other historical resources at Hitotsubashi University" 『経済研究』第28巻第1号, p.84-88 (1977.1)
- Carpenter, Kenneth E. "Introduction". *Catalogue of the Burt Franklin collection, donated by Mitsui Group companies*. Preliminary ed. Kunitachi : Hitotsubashi University Library, 1978, p.ix-xxiv
- Kindleberger, Charles. "The use of libraries by economists : a personal view". Perlman, Mark (ed.). *The organization and retrieval of economic knowledge : proceedings of a conference held by the International Economic Association at Kiel, West Germany*. London : Macmillan, 1977 (International Economic Association series), p. 15-48

※ 今回の展示と社会科学古典資料センターの事業に関し、小泉ゼミOBの「いづみ会」および小泉明先生のご遺族から多大のご支援、ご寄附をいただいております。記して感謝申し上げます。

‡ 展示の準備作業途上の11月11日、社会科学古典資料センターの初代教授を務められた細谷新治先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。



平成30年11月20日発行

一橋大学附属図書館

〒186-8602 東京都国立市中2-1

TEL:042-580-8240 FAX:042-580-8232

